



ご当地 **太坊さん** 茨城

茨 歯 会 報

No.632

茨城県歯科医師会
Ibaraki Dental Association

April
2022
令和4年

4





Contents

デンタルアイ	1
小野寺 鏡子	
理事会報告	3
会務日誌	4
学術委員会だより	7
女性歯科医会だより	13
専門学校だより	17
地区歯科医師会だより	20
岡野 千春	
ピンクのエプロン	24
古橋 裕子	

表紙写真について

桃源郷

ゆめがき

笛吹市で桃の花まつりの総称。

マラソン大会、ハイキング等イベントが開催され、多くの花見客で賑わう。

野たて（抹茶の風景）あり。

近くをリニアが試運転をしてました。

又、近くに“星石”

日本に一つしかない、大変めずらしい石がありました。

（社）茨城県南歯科医師会 斉藤 澄夫

茨城県後期高齢者医療広域連合 歯科健康診査について



常務理事
小野 寺 鏡 子

会員の皆様におかれましては、例年県からの委託を受けて実施しております後期高齢者医療広域連合歯科健診事業にご協力いただき大変有難うございます。

今回はこの健診事業について少しお話ししたいと思います。

この事業は平成26年度より後期高齢者医療制度事業費補助金（国からの補助金）を受けての新規事業として歯科健診が導入され、実施に至ったものです。

厚生労働省より歯科健診の実施方法案として下記の内容が示されました。

【目的】

口腔機能低下や肺炎等の疾病を予防するため、歯・歯肉の状態や口腔清掃状態等をチェックする歯科健診を実施する

【対象者】

後期高齢者医療制度の被保険者のうち、各広域連合において、必要性を考慮して対象者を設定

【検査内容】

健康増進法による健康診査実施要領に規定されている歯周疾患検診を参考に、高齢者の特性を踏まえた検査内容を各広域連合で設定

【実施方法】

市町村や地域歯科医師会に委託して実施

これに伴い、平成27年度に茨城県広域連合と茨城県歯科医師会とで具体的な実施方法を協議し、平成28年度より実施の運びとなりました。

令和3年度には県内1,123件の医療機関にご協力を頂いています。この事業は、後期高齢者医療の被保険者へ適切な歯科診療を促し、歯周疾患の早期発見に努めるとともに、口腔機能の低下や肺炎等の疾病を予防し、生活の質の向上に資することを目的としています。

皆様既にご承知の事とは思いますが、実施概要は下記の様になっています。

【対象者】

前年度に75歳、80歳、85歳の被保険者
（長期入院者、施設入所者等を除く）

【期間】

9月1日から12月31日

【費用】

自己負担なし

【実施方法】

広域連合より茨城県歯科医師会へ委託
（県歯科医師会に属する歯科医療機関のう

ち、本事業に参加の歯科医療機関で実施)

【検査項目】

- ①問診 ②歯の状態 ③咬合状態
- ④口腔衛生の状態 ⑤口腔乾燥の状態
- ⑥歯周組織・粘膜の状況 ⑦口腔機能評価
- ⑧呼吸の異常 ⑨指輪っかテスト
- ⑩反復唾液嚥下テスト
- ⑪事後指導（セルフケアの歯ブラシ指導）等

毎年、広域連合と歯科医師会とで協議会を持ち、前年度の反省点・改良点などを話し合い、少しずつ形は変えてきたものの大分定着してき

たように思います。学校での若年者の健診と異なり、高齢者の特性を踏まえ機能健診に着目しています。

当院においては⑦～⑩の患者さんにとって未経験の検査項目を実施することで、患者さんとのコミュニケーションも増え、改めてフレイル（オーラルフレイル）、健康寿命などについて説明する良いきっかけともなっている様に思われます。

受診率については概ね向上はしているものの一般の健診と比較すると未だ低い状況にあります。

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
歯科健診	8.50%	10.84%	10.33%	10.06%	11.71%
健診	19.97%	20.67%	21.88%	22.23%	12.86%

茨城県歯科医師会HPから介護保険委員会に入って頂きますと、皆様の健診結果データをまとめた実績報告データを年代、地域、項目別に載せてあります。会員の皆様が講演をなさるときなどの良い資料になると思いますので、どうぞ活用ください。

又、検査結果から診療の必要な方には引き続き受診勧奨をお願いします。機能検査結果から口腔機能低下症（疑い）病名での介入もお願い致します。

広域連合からも健診後に異常があるにも拘らず、歯科受診の無い対象者には受診勧奨の案内を出しています。

茨城県歯科医師会としましては、この健診を通して会員の皆様の患者確保と、そして何より県民の健康寿命の延伸に寄与してまいりたいと願っています。

最後に広域連合より下記の様な申し入れがありました。

医療機関様にお願いしたいこと

近年、高齢者において課題とされているのが「フレイル予防」ですが、口腔状態を良好に保つことはフレイル予防において非常に重要であると考えられておりますので、被保険者に対しては治療だけでなく、高齢期における口腔保全の重要性やセルフケアの方法など幅広く指導をお願いしたいと思っております。

また、フレイルを予防するため、歯科受診習慣の第一歩として本歯科健診を位置付けておりますので、歯科健診の積極的な周知にぜひ御協力をお願いいたします。



理事会報告

第12回理事会

日 時 令和4年2月17日（木）午後4時

場 所 茨城県歯科医師会館 会議室

報告者 柴岡 永子

1. 開 会

2. 会長挨拶

3. 連盟報告

4. 報 告

(1) 一般会務報告

(3) 開業予定の歯科医院について

(4) 疾病共済金の支払いについて

県西地区 1名 18日間

西南地区 1名 85日間

(5) つくば市医療福祉費支給制度の対象範囲の拡大について

(6) 市民公開講座に対する後援名義の使用について（申請）

(7) 東京デンタルショー2022への後援依頼について

(8) フッ化物洗口推進事業（就学前）の進捗状況について

(9) モデル校におけるフッ化物洗口実施状況について

(10) 「第30回茨城県歯科医学会県民公開講座」の周知について

(11) 各委員会報告について

医療管理委員会、地域保健委員会、学校歯科委員会、社会保険委員会、専門学校

(12) その他

5. 協議事項

(1) 令和3年度第2回地区会長協議会提出議題（案）について

回答者を決定し説明資料を検討、了承する

(2) フッ化物洗口推進委員会（仮称）の設置について

地区会長協議会にて構想を説明する

(3) 日歯広報コラム「都道府県通信」の執筆について

鶴屋副会長に担当頂く

(4) 令和4年度関東地区歯科医師会諸会議の開催（案）について

承認

(5) その他

【今後の行事予定について】

3月13日（日）8時40分から

第30回茨城県歯科医学会

3月17日（木）15時から 第13回理事会

17時から

第2回地区会長協議会

4月21日（木）16時から

令和4年度第1回理事会

会務日誌

- 2月17日 第4回業務・会計監査の執行。業務並びに制度に関する監査（12月1日～1月31日）、会計に関する監査（収支現況）を実施した。
出席者 野堀監事ほか7名
- 2月17日 第12回理事会を開催。令和3年度第2回地区会長協議会提出議題（案）、フッ化物洗口推進委員会（仮称）の設置、日歯広報コラム「都道府県通信」の執筆、令和4年度関東地区歯科医師会諸会議の開催（案）について協議を行った。
出席者 榊会長ほか17名
- 2月18日 日本歯科医学会第107回評議員会がWEB会議として開催され、学会会務運営について協議が行われた。
出席者 榊日本歯科医学会評議員
- 2月20日 介護保険講習会をハイブリッド形式で開催。「ケアに活かそう！触れる（タクティール）こと」と題してアポロ・サンズHD看護部長の木本明恵先生が講演された。
受講者 47名
- 2月21日 第12回学術委員会をWEB会議として開催。第30回茨城県歯科医学会の開催、令和4年度生涯研修セミナー、バイタルサインセミナー、学術シンポジウムについて協議を行った。
出席者 鶴屋副会長ほか11名
- 2月22日 第2回県へき地医療支援計画策定会議がWEB会議として開催され、令和3年度へき地医療支援機構事業実施状況ほかについて協議が行われた後、へき地医療を担う人材育成についての講演が行われた。
出席者 今湊常務
- 2月24日 医療費の調査分析等のための人材育成研修会がWEB形式で開催され、「医療費分析について」の演題で、獨協医科大学先端医科学統合研究施設研究連携・支援センター准教授の西連地利己先生が講演された。
出席者 榊会長
- 2月24日 第3回県医療審議会保険医療計画部会がWEB開催として開催され、届出により療養病床又は一般病床を設置する診療所の承認について審議が行われた。
出席者 榊会長
- 2月24日 第3回県医療審議会が行われ、第7次茨城県保健医療計画の見直しについて審議が行われた。
出席者 榊会長
- 2月25日 第133回都道府県会長会議がWEB形式で開催され、時局対策について協議が行われた。
出席者 榊会長

- 2月27日 口腔ケア講習会をハイブリッド形式で開催。「人手不足のコロナ禍でも重要だった口腔ケア」の演題で、歯科衛生士による実技指導を交えて、保科守介護保険委員が講演を行った。
受講者 38名
- 3月 1日 第3回県保険者協議会がWEB会議として開催され、役員の選任ほかについて協議が行われた。
出席者 榊会長
- 3月 6日 第8回JMAT茨城研修会がZOOMウェビナーによるWEB形式で開催され、災害医療概論、JMAT総論、熱傷・外傷の処置（ターニケットの装着等）、感染防御についての講義が行われた。
- 3月 8日 茨城歯科専門学校において卒業式を挙行。歯科衛生士科47名、歯科技工士科11名の学生が本校を卒業した。
- 3月 9日 県エイズ治療拠点病院等連絡会議がWEB会議として開催され、最近1年間の各拠点病院の現状ほかについて報告が行われた。
出席者 村居常務
- 3月 9日 HIV研修会がハイブリッド形式で開催され、HIV感染者の歯科治療受入れに関するアンケートー茨城県歯科医師会会員の意識についてーの演題で本会常務理事の村居幸夫氏が、HIV感染制御に関する最新事情と2030年のエイズ流行終結に向けた世界戦略の演題で国立研究開発法人国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センターの田沼順子氏がそれぞれ講演された。
受講者 27名
- 3月 9日 地域ケア推進センター第4回連携会議がWEB会議として開催され、茨城県における認知症施策ほかについて協議が行われた後、各参加団体による意見交換が行われた。
出席者 小野寺常務
- 3月10日 第197回日歯臨時代議員会が日歯会館にて開催された。令和4年度事業計画の件、令和4年度入会金及び会費の額の件、令和4年度収支予算の件、令和4年度資金調達及び設備投資の見込みの件について議事が行われ、全議案可決承認された。今回も新型コロナウイルスの影響により書面による議決権行使を可能としたため、本県の代議員3名は書面決議にて参加した。
なお、新型コロナウイルス感染拡大防止の措置として、議事の模様がYouTubeライブで配信された。
- 3月10日 専門学校にて第2回歯科衛生士就職ガイダンスを開催。各参加診療所がパワーポイントを使用したプレゼンテーションを行い、PRシートを配付した。
参加数 30歯科診療所
- 3月10日 第4回厚生委員会をひたちなか市内で開催し、第42回地区対抗ゴルフ大会について協議を行った。
出席者 沼田厚生部長ほか10名
- 3月11日 都道府県社会保険担当理事連絡協議会がWEB形式で開催され、令和4年度診療報酬改定

にかかる説明が行われた。

出席者 大野理事ほか20名

3月13日 第30回茨城県歯科医学会を開催。今回も新型コロナウイルスの影響により演者以外の来館を中止し、WEB受講という形で一般口演、ポスター発表と公開講座のみに規模を縮小して茨歯会館にて開催した。

3月13日 第13回学術委員会を開催。歯科医学会の反省、令和4年度生涯研修セミナー、バイタルサインセミナー、学術シンポジウムについて協議を行った。

出席者 今湊学術部長ほか10名

3月14日 全国歯科衛生士教育協議会関東甲信越地区会第3回役員会がWEB会議として開催され、顧問心理士の採用ほかについて協議が行われた

出席者 大字校長

3月15日 第2回県総合リハビリテーションケア学会理事会が県看護協会理事室にて開催され、第25回県総合リハビリテーションケア学会学術集会ほかについて協議が行われた。

出席者 榎会長



株式会社岩瀬歯科商会 と 株式会社ウチャヤマ は ヘンリーシャインジャパンイースト株式会社に社名変更いたしました



ヘンリーシャインジャパンイースト株式会社

改めまして、私たちはヘンリーシャインジャパンイーストです！

We try best! -for healthy and white teeth-

事業所案内

宇都宮支店	宇都宮市平出工業団地37-6	TEL:028-613-5858
水戸支店	水戸市白梅2-8-18	TEL:029-225-6543
松戸支店	松戸市幸谷1504-4	TEL:047-345-3131
千葉支店	千葉市中央区浜野町879-1	TEL:043-305-1182
上野支店	台東区台東2-23-7	TEL:03-3832-8241
古河支店	古河市下山町9-60	TEL:0280-30-1582
福島支店	福島市鎌田字卸町4-1	TEL:024-552-1161
世田谷支店	世田谷区玉川台2-11-17-101	TEL:03-5491-7595
練馬営業所	練馬区豊玉北4-14-11 1F	TEL:03-5912-1180
横浜支店	横浜市磯子区中原2-1-19 1F	TEL:045-770-4182
前橋支店	高崎市京目町176-2	TEL:027-350-8241
厚木支店	厚木市酒井2087-14	TEL:046-228-5550
大宮支店	さいたま市見沼区東大宮7-41-1	TEL:048-688-1740
盛岡上堂支店	盛岡市上堂1-6-5	TEL:019-648-2777
盛岡本宮支店	盛岡市本宮6-24-43 1F	TEL:019-635-7750
東大和支店	東大和市立野3-640-1	TEL:042-590-5770
つくば営業所	つくば市花室940-6	TEL:029-863-0720
仙台支店	仙台市若林区荒井5-7-6	TEL:022-794-7066



第30回茨城県歯科医学会が開催されました

学術委員会 今村 由紀

2022年3月13日（日）、第30回茨城県歯科医学会が茨歯会館にて開催されました。茨城県歯科医学会は例年水戸プラザホテルを会場とし、一般口演やポスター発表のほかテーブルクリニック、県民公開講座、各委員会企画や写真道場など、併催として茨城デンタルショーが行われていましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大から、一昨年の第28回は中止、昨年の第29回は会館での規模を縮小した開催となりました。今年は第30回の記念大会ということで、例年通りの水戸プラザホテルでの開催を目指しておりましたが、新型コロナウイルスの第6波によるまん延防止等重点措置が適用されたこともあり、今回も会館にて、来館者を演者と希望会員のみに制限し、一般会員はWEB受講という形で、一般口演、WEBでのポスター発表、県民公開講座、茨城県女性歯科医会企画のプログラムのみで開催されました。

前日に茨城県で過去最高1748人の新型コロナウイルス感染者数を記録したという状況で歯科医学会当日を迎え、会場参加者には受付での検温、手指のアルコール消毒を徹底し、マスク着用義務化、ソーシャルディスタンスを確保しての着席、空気清浄機設置、窓・ドアを開けての換気など、出来る限りの感染対策をして臨みました。

開会式は阿部英一学術委員長長の司会にて進行し、今湊良証実行委員長長の開会の辞、榊正幸会長の挨拶、来賓の紹介とご挨拶（茨城県歯科衛生士

会会長 岩村昌子様、茨城県歯科技工士会会長 瀬谷公子様）が行われました。



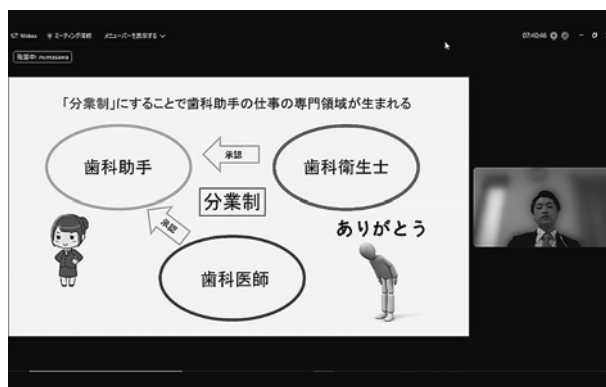
開会式後、午前中は18題の一般口演が会場で行われ、同時にWEB配信されました。また、6題のポスター発表は茨城県歯科医師会ホームページにて期間限定で会員向けに公開されました。会場での質疑応答のほか、WEB受講された会員からの質問はホームページからの受付となりました。茨歯会員の他、栃木県歯科医師会員、多数の口腔外科症例、歯科衛生士会、口腔センターでのコロナ対応、矯正歯科、救命救急、など幅広い分野からの口演発表が行われ、多職種連携の重要性を再認識する大変充実した内容でした。



午後からはWEB配信による県民向けの公開講座、茨城県女性歯科医会による企画プログラムが行われました。

県民公開講座は東京歯科大学名誉教授、柴原孝彦先生から「いまこそ知りたい！口腔がん」と題したご講演を頂きました。口腔がんは「自分で見て、手で触って見つける」ことのできるがんであることから、セルフチェックと歯科医院での定期検診が大切であるというお話がありました。また、口腔がんについてのお話だけでなく、歯科における新型コロナの影響、メタボ対策、健康寿命を延ばすための歯科的取り組みなど、茨城県歯科医師会で大きな柱として取り組んでいる事業についても県民向けに大変わかりやすくお話して頂きました。

企画プログラムは沼澤デンタルクリニック、沼澤秀之先生から「スタッフが辞めない歯科医院の作り方」と題し、歯科医院の大きな悩みのひとつである、コ・デンタルワーカーの人材確保についてご講演頂きました。新卒歯科衛生士に対する求人倍率が約25倍という超売り手市場の中、求職中の人材に選ばれる歯科医院になるためのポイントや、採用したスタッフが「辞めない」ために院長ができることなど、すぐに取り組むことのできるたくさんのアイデアを教えてくださいました。





第19回福田賞は、水戸市歯科医師会の森永桂輔先生が受賞されました。

最後に今湊良証実行委員長の講評・閉会の辞にて終了しました。

今学会は1日を通して会場とWEBでの同時開催となりました。WEBを利用した学会開催も2年目となり、進行上の大きなトラブルはなく全てのプログラムが滞りなく開催できましたが、音声の聞き取りにくさをご指摘いただく場面があったり、会場での感染対策の方法についてはまだ手探りの状態であったり、ウィズコロナでの学会開催における課題も見つかった学会となりました。その反面、WEB受講であったからこそ、遠方であったり、育児・介護など様々な事情で学会への現地参加が難しい先生方、スタッフにもご参加頂けたと

いう利点もあったのではないかと思います。

県歯学術委員会では、これから第30巻茨城県歯科医学会誌を編集し今秋に発刊予定です。一般口演、ポスター発表、公開講座、企画プログラムの事後抄録は第30巻の発刊をお待ち下さい。次回の演題申し込みは学会誌の「第31回茨城県歯科医学会のご案内」演題募集要項をご覧ください。併せて、投稿論文も受け付けています。

次回の第31回茨城県歯科医学会は来年3月12日（日）水戸プラザホテルにて日本補綴歯科学会東関東支部総会・学術大会との共催で開催予定です。会員の皆様よりご意見、ご要望を承り、来年こそは例年通りの規模での開催が行われますよう祈念しております。会員の皆様のご発表、ご参加、ご協力を是非ともお願い致します。



第30回茨城県歯科医学会 県民公開講座 報告

学術委員会 高柳 龍司

令和4年3月13日（日）第30回茨城県歯科医学会 県民公開講座が、学術担当常務理事 今湊良証先生の座長の基、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない状況のため、茨歯会館に来館せずWEB配信にて行われました。

講師は、東京歯科大名誉教授 柴原孝彦先生による「いまこそ知りたい！口腔がん」と題して口腔がんの話のみならず、歯科に関わるさまざまな事柄が健康寿命を延ばす、そのことがいかに大切であるかを、動画や茨城県歯科医師会のいろいろな活動を交えながら、県民に丁寧にわかりやすく説明していただきました。

まず感染症のお話しとして、かかりつけ歯科医で虫歯や歯周病の治療を受けて口腔内をきれいに健康に保つことが、口腔がんのみならず、感染症の予防につながることや歯科に対する社会の感染不安を歯科医療従事者の感染が少ないことのデータで示し、コロナ禍での歯科医療の安全性について説明していただきました。また、歯科医院の受診控えも増えたため歯科疾患、口腔がんが重篤化し、誤嚥性肺炎が増加したお話しで、口腔内をきれいに保つことがいかに重要かが理解できました。

茨城県歯科医師会の活動である「歯科からメタボ対策」「6424」を題材にして、超高齢社会における食べることの意味や口腔の機能の説明、健康寿命とオーラルフレイルの関係についてわかりやすく説明していただきました。

そして茨城県歯科医師会の活動である「脱タバコ宣言」のお話しから本題の口腔がんの話へとわかりやすい講演でした。以下が口腔がんについてお話

しされた内容です。

1. 原因は、食習慣、生活習慣、ウイルス感染、慢性的刺激
2. 部位は、舌がん、歯肉がん、口底がん、頬粘膜がん、口蓋がん、口唇がん、顎骨中心性がん
3. 頻度は、55.2%は舌がん、11.8%下顎歯肉がん、11.4%口底がん、その他
4. 種類：外向型（乳頭型、肉芽型）
内向型（硬結型、潰瘍型）
表在型（白板型、びらん型）
5. 初期の症状は赤か白か
6. 死亡者数は欧米の先進国で減少傾向にあるが、我が国では罹患者の増加と相まって増悪している
7. 視診により発見できるがんであり、早期発見が可能である
8. 悪性でない口腔粘膜疾患からがん化するため、放置してはいけない、お口のリスクがある（アルコール、タバコ、栄養の偏り、ビタミン不足、虫歯、歯周病、合わなくなった被せ物や入れ歯、傾いて生えてる歯、歯磨き不足、お口の癖）
9. 突然がん化しない。長い期間慢性的な刺激を受けながら粘膜上皮の形態を変え変化し、前がん状態・病変を経てがんになる。その期間は10年といわれている。そのためセルフチェックや定期的な口腔検診が重要となる
10. 細胞レベルでは、口腔粘膜の上皮からつく

93%以上が扁平上皮癌である

11. 発生には、慢性的な刺激（未処置歯、不適合な補綴物、歯列不正、口腔不衛生など）が何年も同じ所に傷を重ねると細胞コピーの段階で遺伝子のミスコピーが発生すると考えられている
12. 口腔粘膜疾患の原因からがん化するのでその原因も知っておくことが大切。その原因は、口の中を噛む、ウイルス、疲れ・栄養不足、義歯の不具合、タバコ、多剤併用による口内炎や口腔乾燥症である

13. 早期発見チェックシート

生活習慣：1日タバコを40本以上吸う（一日の本数×喫煙年数が1000以上）

毎日、日本酒を3合以上飲む（日本酒1合は、ワイングラス1杯、ビール500cc）

治癒不全：口内炎が2週間以上治らない

抜歯した傷が治らない 噛んだ傷が治らない
入れ歯の傷が治らない

視診・触診：白っぽいできものがある

赤くただれている かたいシコリをふれる

知覚・運動障害：舌が動かなくなった

口が開きにくくなった 唇や舌がしびれる

14. セルフチェック法（大きな鏡の前で光を十分当ていつも同じ順番で行う）

①前歯の歯肉を見る（上顎前歯部歯肉、下顎前歯部歯肉）

②奥歯の歯肉を見る（上下右側歯肉、上下左側歯肉）

③頬の粘膜を見る（左右頬粘膜の色の状態、傷の有無を確認）

④舌の表面を見る（色、形、傷などの確認）

⑤舌の側面を見る（赤くないか、白くないか、デコボコしていないか）

舌の横は一番大事なチェックポイント

⑥口底を見る（左右の対称性の確認）

⑦舌の下側を見る

口腔がんの死亡者数は欧米の先進諸国で減少傾向にあるが、わが国ではコロナ禍でも増えているそうです。舌がんの頻度が多いため、視診だけでなく触診が大切とされています。

口腔がんは、めったに遭遇しない希な疾患ではなく、毎年4000人を超える方が口腔がんにより命を落としていて、死亡者数は40年前から比較すると3倍以上の値を示しているそうです。これは国民の口腔がん認知度の低さ、また早期では症状がないため医療機関への受診が遅れることがあげられます。

口腔がんは、早期発見によって速やかに治療が施されれば95%以上の治癒率を得ることができるそうです。また進行例では、咀嚼、嚥下や発音などの機能障害や、整容面への障害を生じることが多く、がん治療の中で自殺率の高いがんとも言われています。元々口腔がんは60歳代以降の高齢者や男性に多いがんであるといわれていましたが、最近では40歳以下の若年者や女性の割合も有意に増加傾向にあるそうです。予後や術後の機能障害の点からも口腔がんは、早期発見と早期治療が重要であると改めて思います。



柴原先生は、1979年東京歯科大学卒業から2020年3月31日に退任するまでの41年間、口腔外科の道一筋を歩き続けており（現在もそうですが…）、口腔がん撲滅のために、柴原先生方を中心に2017年に「一般社団法人 口腔がん撲滅委員会」を設立されました。

ホームページ (<https://www.oralcancer.jp/>)

symposium/)もあるので、会員の先生方はぜひ役立てていただきたいと思います。この活動の目的は、

- ・日本における口腔がん死亡率（46.1%：2013年）を米国並み（19.1%：2013年）にすること
- ・日本における口腔がん検診および口腔検診の受診率（2%）を欧米並み（80%）に向上させること
- ・日本の全国各地域における歯科医療の病院連携の実現を果たすこと
- ・日本全国の歯科医院にて口腔がん早期発見の仕組みを普及させること
- ・結果、歯科医療の価値を欧米並に向上させること

医療の環境作りを重視され、開業歯科医院の歯科医師や歯科衛生士への知識と技術の普及活動を行っています。

最初の挨拶で茨城県歯科医師会会長の榎正幸先

生がお話された、「口腔がんは直接口腔内を診察する歯科医師が発見することが最も多く、その責任は重大である」というお言葉には講演後あらためて考えさせられました。

口腔がんは、国が自治体に推奨するがん検診に含まれておらず、平成30年度に口腔がんの検診や相談を実施した茨城県の市町村は、日立市、石岡市、筑西市、桜川市、下妻市、高萩市、取手市の7市のみであります。われわれ医療従事者が口腔がんに対する意識改革をすることと歯科医師および歯科衛生士が診察力向上を目指すこと、および県民への啓発活動を行うことが超高齢社会における責務であると思いました。

令和4年3月22日（火）から4月8日（金）までオンデマンドによるオンライン配信を行っています。「茨城県歯科医師会」ホームページにアクセスして下さい。<https://www.ibasikai.or.jp>





2022年3月13日 日曜日

令和3年度茨城県女性歯科医会 学術講演会及び活動報告

学術講演会

茨城県女性歯科医会 高木 幸江

令和4年3月13日、第30回茨城県歯科医学会で女性歯科医学会の企画講演会が行われましたので、ご報告いたします。演題は「スタッフが辞めない歯科医院の作り方」講師は沼澤秀之先生（2001年東京歯科大学卒業、沼澤デンタルクリニック院長）です。



現在の有効求人倍率は1.61倍、歯科助手求人倍率は6.45倍、歯科衛生士に至っては21倍という超人手不足時代になりつつあります。2021年には生産年齢（15～65歳）が58%まで減少し、最低賃金は右肩上がりに上昇し東京では1000円を超えました。そんななか、歯科医院も一般事務職、販売員、飲食の接客など他職種との人材の争奪戦が激化してきており、歯科助手、歯科衛生士ともに応募は極端に減少してきています。

1. 承認されたいスタッフ

昔話の「桃太郎」になぞらえてお話しくしました。桃太郎は、犬・猿・雉にそれぞれの特徴を生かした戦い方を指示し見事チームで勝利を勝ち取りました。それぞれへの報酬はわずかな吉備団子とそれを補って余りある村人からの惜しげない賛辞でした。ここからの学びは、経営者は皆に

同じことをさせて給与で評価するのではなく、それぞれの特徴にあった仕事をさせて、その結果利益を得る第三者からの感謝の言葉をやりがいに変えることがもっとも質の高いチームを築く楚になるということで、歯科医院に置き換えれば、スタッフ同士や患者さんからの「感謝」となるわけです。

人は生まれながらに生きるうえで マズローの5段階欲求（①生理的欲求 ②安全の欲求 ③所属と愛の欲求 ④承認欲求 ⑤自己実現欲求）を持っています。職場というのは、日々の生活の中でもっとも長い時間を過ごす重要な場であるため、これらの欲求が虐げられたり満たされないスタッフが、自分の居るべき場所ではないと悟り辞めていくのは当然なのです。特に「承認欲求」を満たす仕組みづくりが重要で歯科医院の場合、その人の存在や仕事ぶりに「感謝」や「労いの言葉をかけること」「ありがとう」を言葉にする事が承認欲求を満たしていきます。

歯科医師や歯科衛生士は、直接、患者さんから感謝の言葉をかけられ承認されてモチベーションを保ちやすいですが、歯科助手は、患者さんからの承認が少なくモチベーションが低くなりがちです。そこで、消毒滅菌担当、在庫担当、イベント係、ネット関係、コーディネーター等々の役割を作り分業制にすることで、歯科助手の仕事に専門領域を生み出し、歯科医師・歯科衛生士は歯科助手に「ありがとう」と日々の感謝を伝えます。

歯科スタッフにはホスピタリティの高い人が多いため、このような「承認」でモチベーションを維持できる人が多いと考えられます。モチベーションの形は時代とともに変わっていき個人差もありますが現在の主流は「承認されることでのやりがい」です。

2. 4つのタイプ

院長とスタッフ、スタッフ間で良い関係性を築くためには、コミュニケーションスタイルによる4つのタイプを知ることです。感情表出の高低、自己主張の高低によって以下の4タイプに分けられます。

- ①コントローラー（行動的でエネルギッシュ）
- ②プロモーター（アイデアが豊富で創造力がある）
- ③サポーター（人を援助したがる、温かく穏やか）
- ④アナライザー（物事に取り組む時データに基づく分析から始める）

生活環境や受けてきた教育などがまったく関係しないとは思いませんが、それよりも大きく違うのは人格そのものです。ものの考え方や望むものそのものが到底理解の及ばない「違う人格」。ましてや「ゆとり世代」、「悟り世代」などといわれ競争をよしとしない社会で育まれた世代はそもそも仕事に対しあまり執着せず自己成長に興味の薄いスタッフもいます。そこで相手を理解しようと歩み寄れるかどうか大きなカギになってくるのです。共同作業を行うにあたって、お互いの理解を

深めるために「違う人格を認める」ことが必要で、4つのタイプ分けは大変参考になります。

3. ミーティング、面談

何もしていない医院は毎年退化しているのと同じです。医院を発展させるには新しいことにどんどん取り組んでいく必要があります。年若い自分だけの意見では新しい時代の流れに乗り切れませんので、若いスタッフ達の意見も積極的に汲み上げ活発な議論ができるミーティングが必要です。「今の医院の問題点」や「クレームの改善」というような医院のシステムを改めるためのミーティングが本来のミーティングです。「医院を進化させる中枢の会議は診療を切ってまでやるんだ」という院長の本気度を示す必要があるのとアポイントをカットして行うからには減収を覚悟の上で行っているミーティングの重要性をスタッフに理解してもらう必要があります。

また、「頑張ったところ」「反省点」「今年の目標」「もうちょっとリスト」を作成してスタッフ一人一人と面談を行い、努力をねぎらいつつ本人の問題点をどう克服していくかコーチングしていきます。新人スタッフには初日終了後 3日目 1週間 1ヶ月 3か月以降3か月毎に、既存スタッフには最低1年に一度の面談を行い、成長を促します。

スタッフの成長以上に「院長の成長こそが医院の最も効果的な改善です」具体的にはまず自分が変わることです。変わるためには、自分の「もうちょっとのところ」に目を向けてそのフィードバックに真摯に応える人間性を養いましょう。

4. 採用、教育

現在、働く目的は 経済的に豊かになることや自分の能力を試すことよりも「楽しい生活がしたい」が主流です。選ばれる歯科医院になるためには、それぞれの職種にあった魅力を作ることが大切です。

①歯科助手 歯科助手採用の競合相手は一般事務やコンビニなどの一般企業なので給与、福利厚生、長く勤められる仕組み（有給、産休、育休などの労務環境）を説明します。迷った時には、近くに住んでいる人、4タイプのサポータータイプの人を採用するのが良いでしょう。教育係を決めてサポートしながら一つ一つ教育していきます。マニュアルを用意し知識向上と復習をしやすくします。

②歯科衛生士 衛生士が仕事したくなる魅力ある仕事内容（訪問、予防、担当制等）を説明します。医院の雰囲気、仕事、設備、患者さんの層を見るために見学、面接に来院してきます。衛生管理がずさんな医院に人は集まりません。相互実習や講演会への参加を通じて教育、向上を促します。

③歯科医師 大学とのパイプを常に持つことや最新設備を常に導入しておくことが重要です。また、女性歯科医師が勤務しやすい環境を想定しておくことも必要です。そして成長できる教育システム（定期的な学術勉強会、実習）や開業のステップへのサポートを行うと良いでしょう。歯科医師の教育は、「代診は必ずしも弟子ではない」ことを念頭に、必要なものを必要な時にを行います。

私達は患者さんだけではなくスタッフから選ばれた時代になりました。限られた人材をしっかり育てていかねばならないのです。「スタッフの人生の最高の脇役になること」が私達に望まれます。

茨城県女性歯科医会報告

長谷部 和子

コロナ禍により、平成31年度以降総会も行えず、活動報告が遅れましたことをお詫びします。

平成30年度の第27回茨城県歯科医学会（平成31年2月3日）において、東京歯科大学 口腔健康科学講座 摂食嚥下リハビリテーション研究室



准教授 大久保真衣先生の講演会を行いました。仕事に育児に全力疾走する先生の活躍を拝聴し、ワークライフバランスを考える上での参考になったかと思います。また、当日の総会において、規約の承認を得ました。会は原則として茨歯会に入会した女性歯科医師で組織する。ただし、茨歯会会員の家族またはそこに勤務する女性歯科医師で、入会を希望する者の入会を認める。前項に該当しない女性歯科医師で入会を希望する者は役員会の決議をもって入会を許可する。という事で、門戸を広げ、活動していくことになり、31年度・32年度（令和元年度・2年度）の役員名簿も了承いただきました。

関東一円と山梨県の女性歯科医師の会並びに男女共同参画委員会（神奈川県歯科医師会・埼玉県歯科医師会）は平成19年より関東女性歯科医師の会を作り、情報交換しております。

平成31年度関東女性歯科医師の会は、東京都の当番で、4月14日帝国ホテルにおいて全体会が開催され、役員3名が出席しました。シンポジウム～輝ける女性歯科医師をはぐくむために～という事で、①きらめきプロジェクト～12年を振り返って～ 九州大学名誉教授 水田 祥代先生 ②日本歯科医師会からのこれからの女性歯科医師への提案 日本歯科医師会理事 有松 美紀子先生 ③全国歯科大学同窓会アンケートからの報告～女性サポートプロジェクトに関して～ 東京都女性歯科

医師の会 中村 文子先生 の講演がありましたが、時間に余裕がなく質疑応答ができず残念でした。

令和元年度は歯学会において、総会と「住み慣れた地域の中で最期まで自分らしく生きる」ー玉穂ふれあい診療所と緩和ケアー という演題で講演会を計画しましたが、コロナ禍という事でプラザホテルでの開催はならず断念しました。

令和2年の関東女性歯科医師の会は神奈川県を担当でしたが一同に会しての全体会は開催できず、令和3年2月21日各県1～2名の代表者会議がオンラインで開催されました。内容としては、前年度全体会報告・会計報告、各県活動報告、協議事項として全大会の開催形式・あり方についてでしたが、一同に会しての全体会は当分見合わせるという事になりました。

令和2年度の歯学会の企画についても、コロナ禍という事で、断念せざるを得ませんでした。

本来2年度末には、次年度の役員改選時期では

ありますが、コロナ禍の折、引き続き役員をお願いしたいとの会長の意向をうけ、役員一同了承しました。

令和3年3月24日役員会において歯学会の企画「スタッフが辞めない歯科医院の作り方」を決定。申請したところプラザで開催できない場合は、歯科医師会館とWEBでの受講ができることになりました。

プラザで行う場合は、小さなお子さんがある場合は、なかなか学会に参加しにくいということもあり、女性歯科医会としては、女性の学会参加者にアンケート調査をしたり、学術委員会にお願いして託児所を開設したりしてきましたが、WEB受講できればこれらの問題はなくなるわけで、これからの開催方法かと思われます。

以上今までの経緯をご報告しました。



【歯科技工士科 国家試験】

令和4年2月20日（日）、全国統一歯科技工士国家試験が日本歯科大学生命歯学部において実施されました。

今年もコロナ禍での受験ということで、受験直前まで気苦労の絶えない日々が続きましたが、2年生11名は無事に試験当日を迎え、受験をすることができました。当日は緊張した様子もありましたが、実地試験、学説試験とも落ち着いて受験できたようでした。

合格発表は3月25日（金）14時となっております。11名全員が2年間の学習成果を合格という形で残すことができると祈っております。

学生生活2年間をコロナ禍という状況で過ごさなければならなかった11名ですが、この経験をばねとして、大きく羽ばたき、歯科技工士として多くの患者さんのために活躍してくれることを期待いたします。

（文責 小田倉）

【歯科衛生士科 国家試験】

（大妻女子大学）

令和4年3月6日（日）歯科衛生士国家試験が東京都の大妻女子大学で実施されました。

新型コロナウイルス感染症が蔓延する中、不安を抱えながら国家試験までの日々を過ごしていましたが、無事に国家試験を迎えることができました。試験前日も当日もとても穏やかな天気、国家試験を後押ししてくれているかのようなようでした。

試験当日の朝は、大字校長をはじめ堤副校長、小澤教務副部長、「組織発生学」講師 橋本貞充先生も激励に訪れてくださいました。先生方からのエールに、緊張と不安に包まれていた学生の表情も解れ、士気を高めて試験に臨むことができました。

試験終了後は、お互いに労いの言葉をかけ合う姿が多く見受けられました。コロナ禍での学校生活は、制限も多くありましたが、常に前向きに、勉強に取り組む様子に、頼もしさを感じました。3月25日（金）の合格発表まで約2週間ありますが、3年間一人ひとりが精一杯努力した成果が発揮され、全員が合格することを祈りたいと思います。

（文責 川井）



【令和3年度卒業式挙行】

喜びと期待を胸に

3月8日（火）午前10時より茨城県歯科医師会館講堂で卒業生を含む、関係者約120名を集めて茨城歯科専門学校卒業式が挙行されました。今回は、新型コロナウイルスの感染予防のため規模を縮小しての開催となりました。

本年度の卒業生は歯科衛生士科47名、歯科技工士科11名です。

式は、堤浩一郎副校長の司会により進められ、校歌斉唱に続き小澤永久教務副部長（歯科衛生士科）野口知彦教務副部長（歯科技工士科）が卒業生の氏名点呼を行い、大字崇弘校長から一人ひとりに卒業証書、記念品が授与されました。



卒業証書、記念品の授与

次いで成績優秀者・無欠席者・特待生の表彰が行われました。

◇成績優秀賞

（歯科衛生士科）川又百恵さん

大武千夏さん

谷 織恵さん

（歯科技工士科）三好晴夏さん

村山珠里奈さん

◇皆勤賞

（歯科衛生士科）大越真子さん他18名

（歯科技工士科）沼田 葵さん他5名

◇特待生褒賞

（歯科衛生士科）川又百恵さん

（歯科技工士科）三好晴夏さん

以上の表彰者に表彰状と記念品が授与されました。

次に大字崇弘校長が「これまで勉強してきたことは基礎の基礎でしかなく、これから医療現場において大きく羽ばたくには、研鑽を積み重ねていかねばなりません。単に技術や知識の習得だけでなく、患者さんの気持ちのわかる歯科衛生士、歯科技工士になってほしいと思います。今日の感動を忘れず、常に正しく、強く、志高く邁進することを望みます。これから、皆さんが幸多き人生を歩まれることを祈念いたします。」と式辞を述べられ、榊正幸名誉校長の訓辞では「今後は専門の知識やスキルだけではなく、考える力、実践する力等を社会を通じて学び、歯科医療現場で自ら考えて行動できる力をより一層身に付けてください。専門技術職を取得したことで自信を持って働くことができます。皆さんの今後のご活躍を期待しております。」とはなむけの言葉が送られました。

次に、特別表彰として、表彰者が紹介されました。

ー特別表彰ー

◇いばらき専門カレッジリーグ賞

（歯科衛生士科）和田美咲さん

（歯科技工士科）仲田翔太さん

◇日本歯科衛生士会長表彰

学術優秀賞

（歯科衛生士科）船橋百恵さん

◇日本歯科技工士会長表彰

学術優秀賞

（歯科技工士科）三好晴夏さん

その後、在校生代表の寺田あこさんの「人々に愛される歯科衛生士、歯科技工士になって私たちの模範でいて下さい。」と心のこもった送辞を受け



送辞を述べる寺田あこさん



答辞を述べる来栖美咲さん

て、卒業生を代表して来栖美咲さんが感謝の言葉とともに「立派な歯科衛生士、歯科技工士になることを誓います。」と答辞を述べました。

最後に、卒業生代表の柴田翔伍さんからの記念品贈呈で式は終了しました。

(文責 川崎)

水戸市歯科医師会 イブニングセミナー報告
統一テーマ：スタッフと共に学ぶ



新しい時代のカリオロジー

う蝕に「なりやすい人」を「なりにくい人」に…

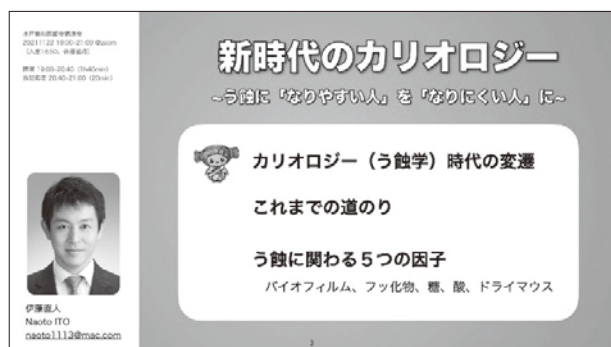
講師：伊藤 直人 先生

ORCA・Club22・NMG所属・伊藤デンタルクリニック院長

(社)水戸市歯科医師会 学術委員 岡野 千春

令和3年11月22日（月）に水戸市歯科医師会主催のもと、ZOOM配信によるWEBセミナーが開催されました。今回はカリエスブックの著者で知られています伊藤直人先生をお招きして、「新しい時代のカリオロジー う蝕に「なりやすい人」を「なりにくい人」に…」という演題でご講演いただきました。

カリオロジーの考え方を実際の臨床にどのように応用するか、う蝕治療の変遷とカリオロジーの潮流を振り返ると共に、う蝕に関わる5つの因子についてなどをご紹介します。以下に、本講演の内容を要約してご報告させていただきます。



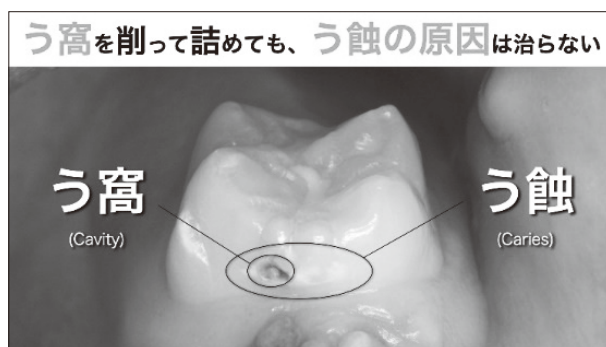
○ はじめに

う蝕は脱灰と再石灰化の間を絶えず行き来して

いる。脱灰が再石灰化を上回った結果がう窩である。



しかし、う窩にいくら修復治療を行っても、う蝕を治療したことにはならず、原因に対処しなければまたう蝕になってしまう。



○う蝕治療の世代変換：（第一世代）抜歯⇒（第二世代）削る治療⇒（第三世代）削らない治療へ

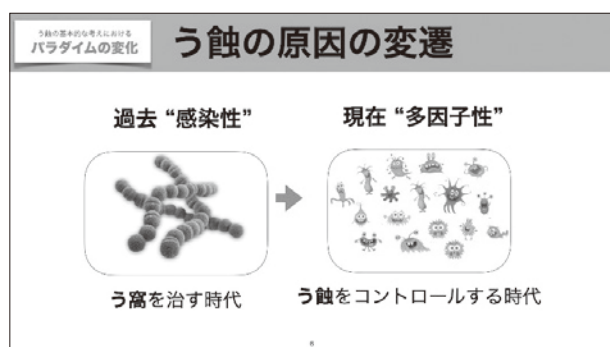
ヨーロッパを中心に起こった産業革命の頃、う蝕の治療と言えば、「抜歯」が主流であった。100

年ほど前からtooth preparationの原則が提唱され「削る治療」が広まった。そして現在はカリオロジーの研究が進むに伴い、「削らない治療」が広められるようになった。その理由には、う蝕の病因論に対する捉え方が変遷を遂げていることがあげられる。従来う蝕はある特定の細菌感染によるものといわれてきたが、近年は口腔常在菌の動態変化に影響されるとする『生態学的プラーク説』が提唱され、う蝕の病因論や治療の目的が変化した。生態学的プラーク説の考え方は、今回の講演テーマである、新しい時代のカリオロジーであり、う蝕に「なりやすい人」を「なりにくい人」に導いてゆくという考え方である。



○う蝕の原因は多因子性・フッ化物作用機序の変遷

現在多くの研究で、う蝕は多因子性疾患であると明らかにされた。そのため、う蝕の治療は治す時代からコントロールする時代へシフトしている。しかし、そのう蝕因子の多さゆえに臨床ではセルフケアの改善がままならないことが多い。



過去にフッ化物は歯質強化と言われていたが、現在は再石灰化の促進をするものであるといわれている。フッ化物を利用し、生涯にわたるカリ

エスコントロールをすることが必要となる。



ONICCS : N.Ito Caries Care System

う蝕の説明・モチベーション



Step1: バイオフィーム (歯磨き)



Step2: フッ化物



Step3: 糖



Step4: 酸



Step5: ドライマウス



メンテナンス

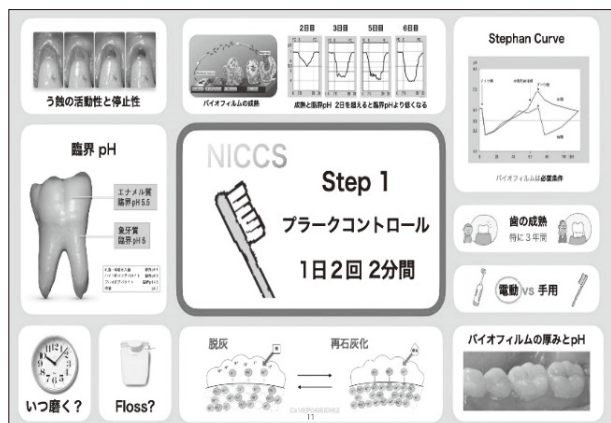


カリエスコントロールをするため、患者教育に効果的なう蝕ケアシステムとして5つのステップ(NICCS)を作成した。

う蝕はプラーク、糖、生活習慣、個人や集団レベルにおける環境因子が、歯面レベルの因子に影響を与え、口腔内でpH変化を起こすバイオフィーム液相と歯面が時間とともに関わり合うことで発

症する。NICCSではこの多くの因子の中から患者自身が改善可能な因子をピックアップし、そこに、細菌叢に影響を与えて複合う蝕を引き起こす「酸」を追加した。そして患者の行動変容を促しやすくするため、う蝕の因子に優先順位をつけ、患者自身がとるべき行動を極力シンプルに絞り込んだ。

○Step1：バイオフィーム



- ・バイオフィームはう蝕の直接的な要因である。
- ・バイオフィームは3日たつと3倍に膨らむ。
48時間を超えると臨界pHを超える。
- ・ブラッシングとフッ化物の応用で、う蝕の進行を止めることができる。
- ・1日2回以上歯磨きする人は、2回未満の人よりう蝕が少ない。
- ・電動歯ブラシは手用歯ブラシよりプラーク除去に効果的である（ただし患者による）。

○Step2：フッ化物



- ・歯磨き後は歯磨剤に含まれるフッ化物を残留させるため、口は1度だけゆすぐ。
- ・フッ化物は口腔内にいつも存在することでう蝕の進行を遅らせることができる。

○Step3：糖



- ・う蝕リスクを高めるのは、糖の摂取量よりも回数が問題となる。
少量を頻繁に摂取するより、量が多くても回数が少ない方がよい。

○Step4：酸（飲食）



- ・酸蝕菌については、どんな歯磨きの仕方をするかではなく、原因を無くすることが大事である（リン酸やクエン酸が含まれるような飲食の習慣的な摂取は避ける、など）。
- ・酸と糖の両方が関わる病態「複合う蝕」はプラークの付着が少ないわりに進行が速いので、より注意が必要。

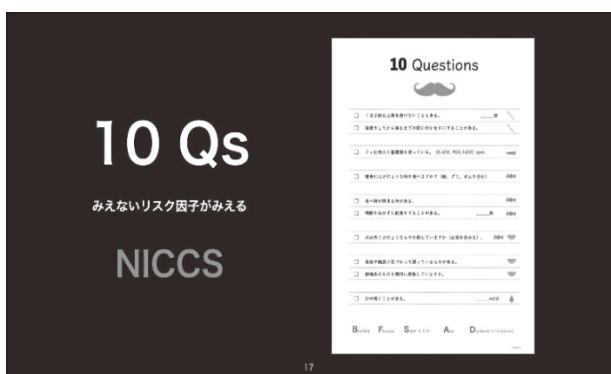
○Step5：ドライマウス

- ・ドライマウスは極度のリスクである。
- ・ドライマウスの患者さんのカリエスコントロー



ルには、食後すぐの歯磨きやフッ化物のプラスケア（洗口剤・フォーム・シュガーレスガムなど）が有効である。

○10 Questions



- ・ 10 Questionsは、患者さんのう蝕の原因について情報収集するためのチェックシート。伊藤歯科では問診の際、使用する。

○おわりに

今回の講演では、「カリオロジーの考え方を実際の臨床にどのように応用するか」について、う蝕治療の変遷とカリオロジーの潮流を振り返ると共に、NICCSまでを紹介しました。さらに詳しい内容は、カリエスブックやドクターブックの動画などを参考にいただき、多くの方々と知識を共有できることを期待しております。う蝕学は奥が深くて楽しいものです。今回の講演で皆様にその入口をひらくことが出来たら幸いです。

以上、今回の講演の要旨をご報告させていただきました。

歯科診療では、毎日の診療の中で、う蝕と接する機会がまだまだ多くあります。

う蝕という疾患を目の前にしたとき、削って詰める方法を考えるだけではなく、原因を考え、それぞれの患者にあったカリエスコントロールを生涯にわたり指導していく必要が私達歯科医師や歯科衛生士にあることを今回の講演で学ぶことができました。新しい時代のカリオロジー、う蝕に対する新しい考え方を、今後もスタッフと共に学び、NICCSを参考にし、明日からの臨床に生かすことができたらと思います。伊藤先生、ありがとうございました。



〒310-0911 茨城県水戸市見和2-292
 公益社団法人
茨城県歯科衛生士会
 TEL・FAX 029-253-5807
<https://ibaraki.jdha.or.jp>
 E-mail jimu@ibaraki-dh.net

(公社)茨城県歯科衛生士会 県南支部 古橋 裕子

歯科衛生士として仕事にも慣れてきたころ結婚、
 出産、育児をきっかけに退職しました。

子育ても落ち着いてきた頃に母子保健歯科事業
 の仕事の話がきました。復帰することに不安もあり
 ましたが、思いきって仕事をすることにしました。

1歳6ヶ月、3歳児健診で、手作りの紙芝居や
 顎模型を使用しての講話、歯磨き指導、フッ化物
 塗布と本を読んだり先輩歯科衛生士の実際を見な
 がら、仕事に臨んでいました。歯科相談では保護
 者から「嫌がって仕上げ磨きができない」「大泣き
 でどうしていいか・・・」「無理やりやってもいい
 の？」等悩みも多く聞かれ、子どもの口の中に歯
 ブラシを入れられないといった相談も受けてしま
 した。この仕事をしている私たちからしてみると
 保護者にとっては口の中に指を入れることに抵抗

があるのでしょう。私自身3人の子供を育て、歯
 科衛生士とはいえ大変だったことを思い出します。
 まずは保護者のお話をしっかり聞いて自分の子育
 ての経験を話したり、わかりやすく不安にならな
 いように答えてきました。今は手軽にネット検索
 して情報を得ることが出来ます。たくさんの情報
 を持って相談に来る方も少なくありません。偏っ
 た解釈や受け止め方をしている方もいます。ネッ
 トだけに頼るのではなく、歯科専門職から話を聞
 くことが必要だと感じました。

今はCOVID-19で相談を受ける時間が限られ
 ています。保護者の悩み、心配事はないか、
 COVID-19が一日でも早く収束し、また一人一人
 と向き合い、相談を受け、指導できる日が早く来
 ることを願っています。

有限会社 アイ・デー・エス は、
各種保険の代理店・集金業務
を行っております。

〈損害保険会社〉

損害保険ジャパン株式会社

東京海上日動火災保険株式会社

〈生命保険会社〉

SOMPOひまわり生命保険株式会社

朝日生命保険相互会社

日本生命保険相互会社

大樹生命保険株式会社

明治安田生命保険相互会社

住友生命保険相互会社

第一生命保険株式会社

アフラック生命保険株式会社

東京海上日動あんしん生命保険株式会社

三井住友海上あいおい生命保険株式会社

〈取扱保険商品〉

医師賠償責任保険

個人情報漏えい保険

クレーム対応費用保険

所得補償保険

長期傷害所得補償保険

家族傷害保険

デンタルファミリー傷害保険

ゴルファー保険

自動車保険

火災保険

グループ保険（団体定期保険）

小規模企業共済

新規加入、増額変更、何なりとご用命ください。

有限会社 アイ・デー・エス

代表取締役 榊 正幸

水戸市見和 2 丁目 292 番地の 1 茨城県歯科医師会館内 Tel:029-254-2826

みんなの写真館

Photo
Gallery



(社) 茨城県南歯科医師会 齊藤 澄夫

会 員 数

令和4年2月28日現在

地 区	会員数(前月比)
日 立	114
珂 北	143
水 戸	155
東西茨城	73
鹿 行	101
土浦石岡	181
つくば	141 ±1
県 南	174
県 西	154
西 南	101
準 会 員	7
計	1,344 ±0

みんなの写真館写真募集！

このページには皆さんからの写真を掲載できます。表紙写真に関連した写真、ご自宅の古いアルバムに埋もれた写真などをお送り下さい。

1種会員 1,135名
2種会員 83名
終身会員 119名
準会員 7名
合 計 1,344名



Ibaraki Dental Association

公益社団法人 茨城県歯科医師会

茨 歯 会 報

発行日 令和4年4月

発 行 茨城県歯科医師会 水戸市見和2丁目292番地の1

電 話 029(252)2561~2 FAX 029(253)1075

ホームページ <http://www.ibasikai.or.jp/>

E-mailアドレス id-05-koho@ibasikai.or.jp

発行人 渡辺 進

編集人 柴岡 永子



この会報には、環境に配慮して植物油インキを使用しております。